

第54回日本PTA関東ブロック研究大会山梨大会ご報告

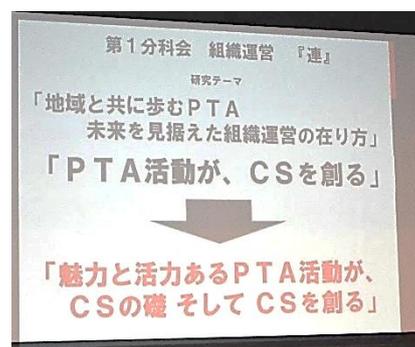


10月15日・16日に山梨県を会場に「関東ブロック研究大会」が開催されました。ここでは、初日に参加しました3つの分科会の概要と、2日目の全大会の様子についてご報告します。

【10月15日】

□参加分科会の報告

第1分科会 南アルプス市桃源文化会館 テーマ「地域と共に歩むPTA」
 講話 地域と共に歩むPTA 未来を見据えた組織運営の在り方
 講師 昭和町教育委員会教育長 太田 充 氏
 内容 コミュニティスクール導入と共に、その中で果たすPTAの役割について取り上げられました。学校・家庭・地域の連携・協働が、子どもたちの成長にプラスになっている事例が紹介されました。



研究発表(1) 神奈川県座間市PTA連絡協議会

「座間市の活動研修会」つながりを深め、よりよいPTAに

研究発表(2) 茨城県稲敷郡阿見町立あさひ小学校PTA

何ができないかではなく、何ができるかを考えて





新型コロナウイルス感染拡大により、PTA活動の縮小が余儀なくされた中、ウイルスの脅威にただ待つだけではなく、「待っているだけでは何も起きない、何ができるかを考えよう」と考え方を切り替え、学校行事ができないなら、自分たちで作ろうと、子どもたちの発想を取り入れた「あさひチャレンジ」を始めた。その実践とPTAの取組についての紹介があった。最後に、他のPTAの役員の方々の皆さんも苦勞をされているかと思うが、ともに頑張りましょうとの呼びかけがあった。

第2分科会 甲州市市民文化会館 テーマ「地域コミュニティにおけるPTA活動の在り方」

講話 地域コミュニティにおけるPTA活動の使命

講師 山梨大学教育学部教授 日永 龍彦 氏

研究発表(1) 横浜市立西寺尾第二小学校PTA 「地域、家庭、学校がひとつになって」

研究発表(2) 群馬県伊勢崎市あずま中学校PTA

「生徒の健全育成を願う、地域と一体となったPTA活動」

研究発表③ 山梨県笛吹市立 Foot 芦川小学校PTA

「PTA活動と地域社会活動とのかかわり」



中央地区 PTA は、甲州市市民文化会館にて、行われた第 2 分科会「地域コミュニティにおける PTA 活動の在り方」に参加しました。アトラクションでは、塩山中学校吹奏楽部による素晴らしい演奏を鑑賞しました。分

科会の発表にて、横浜市西寺尾第二小学校、笛吹市芦川小学校で行われている地域との活動、絆の深さを感じました。伊勢崎市あづま中学校では、通学路における危険箇所を保護者へ情報提供をし、毎年5月まで、もっとも危険と思われる箇所に、PTA 役員で旗振り活動を行なっているとのことでした。分科会を通じて、学校、地域、PTA が一つとなり、子どもたちの安心安全はもとより、世代の縦のつながりで、これからを担う子どもたちにみんなができること、そしてみんなでコミュニケーションをとっていく事を学習することができました。

茨城県PTA連絡協議会副会長 塚本 克久

第4分科会 富士吉田市市民会館 テーマ「自然災害に対する安全について考えよう」

講話 富士山の噴火に備えて～過去から学ぶもの～

講師 富士山科学研究所富士山火山防災研究センター長 吉本 充宏 氏

研究発表(1) 新潟県柏崎市立比角小学校PTA

「ちょこっとサポーターから比角スマイルプロジェクトへ～地域連携への取組～」

研究発表(2) 静岡県浜松市東部中学校PTA

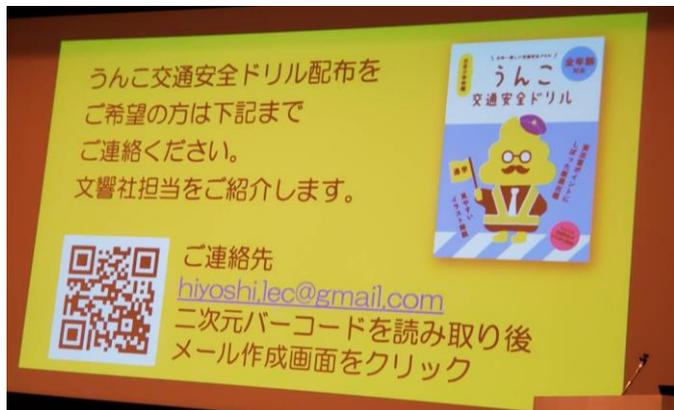
「コロナ禍だからこそできる全生徒に寄り添った活動を」

研究発表(3) 神奈川県川崎市立日吉中学校PTA

「なぜ、私たちは『うんこ交通安全ドリル』を作ったのか？」

研究発表(4) 山梨県富士吉田市立吉田西小学校PTA

「富士山の火災害から子供たちを守る活動」



国内最高峰『浅草ジャズフェスティバル』でグランプリ受賞実績のある富士学苑中学高校ジャズバンド部の心が躍るオープニング演奏に会場は一気に引き込まれました。

「自然災害に対する安全について考えようー富士山の火山災害から子どもを守る PTA 活動ー」をテーマとし、富士山科学研究所吉本センター長より、災害に備えるのは、「知識×経験×意識」が大事であり、東日本大震災でも、異変に気付き、臨機応変かつ的確な判断で、当初の避難所ではなく、更に安全な避難所へ移動することで、難を逃れた学校の事例を聞くことができました。

事例発表は地元の小学校で、先生や保護者の協力の下、富士山噴火を想定し、避難所まで全校生徒が長距離を歩く避難訓練をし、子どもたちの感想も集約することで、今後の課題が明確になったという実践的な事例でした。

第4分科会では常に危機意識を持ち、実践的な訓練をすることで、子どもたちの命を守る安全安心に繋がることを学びました。
茨城県PTA連絡協議会副会長 美間久美

【10月16日】

全体会の報告

記念講演 演題 「私の科学と社会貢献」

講師 大村 智 理学博士

山梨県韮崎市出身、北里大学特別栄誉教授、日本学士院会員 他

イベルメクチンの発見・開発

2015年「線虫感染症の新しい治療法の発見」にてノーベル医学・生理学賞受賞

現在、北里大学メディカルセンターの建設、山梨科学アカデミーの創設を始め、医学・科学・文化分野の人材育成および地域振興に尽力。

《講演の概略》

- ・ 自己の生い立ち、青春時代、そして祖母・両親の教え、さまざまな先生との出会いを通しての成長を中心に、自分を奮い立たせた「言葉」を添えて講演がなされました。以下、その一部をご紹介します。
- ・ 冒頭は、明治生まれの祖母の教えから始まり、教員をされていた母親のことば、そして、進学した山梨県立韮崎高等学校の校訓「百折不撓」(どんな困難にあっても志を変えないこと)が自分に与えた影響について話されました。
- ・ 中段からは、山梨大学での先生との出会い、墨田工業高等学校の教員時代、そして、東京理科大学大学院時代についてのお話でした。その中でたくさんの自分に影響を与えた下記のような言葉が紹介されます。
至誠惻怛(山田方谷)、金を残して死ぬ者は下、事業を残して死ぬ者は中、人を残して死ぬ者は上(後藤新平)、お金がないから何もできないという人はお金があっても何もできない(小林一三)。他
- ・ 後半は、微生物研究の道に進んだこと、5年勝負の目標を持ち研究に励んだこと、イベルメクチンの発見・開発と社会への貢献、そして、後輩の育成の大切さについて言及されました。



大村智記念学術観QRコード